

■ 達人出版会の設立にあたって

「どのくらいのはやきで生きるか？」
——鈴木いづみ『いつだってティータイム』

20世紀は、書籍や雑誌といった紙媒体によるコンテンツの製作・流通システムが隆盛を極めた時代でした。

文字や図画による情報閲覧用デバイスとして考えた場合、雑誌・書籍のユーザインタフェースは圧倒的な完成度を誇っており、他の追随を許さないと言っていいでしょう。その品質による恩恵は、21世紀の現在に至っても、広く享受され続けています。

しかしながら、その完成度を求めるがゆえの代償として、未だ手にすることができない利便性があることも、もはや無視しきれません。

たとえば、物質であることから生じる更新と流通の限界。Webでのコンテンツ管理に慣れてしまった者にとって、一度公開した後では容易に修正できない制約は、あらゆるところで不要なコストを生み出しているように感じるでしょう。

たとえば、双方向性の限界。ネットでのコラボレーションは未だ進化し続けており、紙媒体の持つ非対称的なコミュニケーションとの距離はますます開く一方です。

このような問題点は、例えばコンピュータ技術、とりわけインターネットとの親和性の高い技術の進歩の早さと比較すると、よりその深刻さが明らかになります。新たな技術、ツールやサービスが登場しても、それを解説する書籍が出版されるまでもタイムラグが広がりすぎてしまい、書店の店頭で見かけた時にはすでに旧バージョンとなっていた。そういった憂慮すべき状況も、ネットによって加速されたソフトウェア開発の世界では、ごく日常的な光景になりつつあります。

ただでさえ英語によるコンテンツの優位性が高まり、日本語というローカルな言語によるコンテンツの流通が相対的に低下しかねない現在、従来とは大きく異なった、まったく別の「出版」のあり方を生み出さなければいけないのではないか——達人出版会は、このような強い危機意識を原点として、活動を開始いたしました。

新しいコンテンツを、新しい読者に、新しい方法で届けること。そこに求められる速度を得るには、現在の紙媒体の速度は、あまりに遅すぎるのです。今までとは異なる、新しいワークフロー、新しいシステム、新しい技術が必要とされているのです。そして、それを作り出し、あまねく広めることこそが、達人出版会の使命です。

21世紀の情報と知識の流通を加速させ、産業や文化を支える知的インフラをダイナミックな変化に富んだ豊穡な空間へと変える。そしてその先にある未来に希望をつないでいく。そんな世界を実現するべく、達人出版会は微力ながらも尽力していきます。

2009年12月5日 達人出版会代表 高橋征義

■ 達人出版会について

○名称

達人出版会

○設立日

2009年12月5日

○主な活動

出版物（特に電子出版物）の制作

出版物（特に電子出版物）の販売

出版システムの開発・運用

電子出版に関する啓蒙活動

その他

○組織形態

任意団体

○代表

高橋征義

○サイトURL

<http://tatsu-zine.com/> (準備中)

○連絡先

info@tatsu-zine.com

■ 達人出版会の電子出版サービスについて

達人出版会は、近日中にインターネットでPDFによる電子書籍を販売するサービスを開始いたします。

本サービスの特徴は以下の通りです

最新のコンテンツをいち早く有償で販売

情報が陳腐化する速度は加速される一方です。この速度に追従するべく、達人出版会は最新の技術や情報をPDFの形でいち早く制作・販売し、既存の書籍・雑誌や無料のblogサイト等とは異なる、新しい情報のチャンネルを構築することを目標としています。

DRM技術を使わないPDFの提供

さまざまな形での再利用が可能なことは電子書籍の重要な利点の一つです。それを何かしらの形で制限をかけることは、電子書籍の価値を自ら損ねていると言っても過言ではありません。

とりわけプログラミング技術文書においては、記載されたソースコードが自由にコピー・抽出できることは必須と言えますし、利用者が様々な形態で（再）利用できることはコンテンツの有用性を高めます

達人出版会は、パスワードや印刷不可等の制限をかけずにPDFを販売します。PDFの各ページには、利用者の名前が埋め込まれ、利用許諾に従わない形での使用を禁止する旨の文言を入れますが、それ以外の機械的な制限は行わない予定です。

コンテンツの更新を適宜行う仕組みと追加費用なしで入手できる仕組みの提供

インターネットで配布されるアプリケーションは、いつでも更新できることが強みです。フリーソフトウェア・オープンソースソフトウェアでは、この仕組みがさらに強化され、開発者がソースを更新すれば、自動的に更新された配布物ができあがる仕組みも作られています。

達人出版会は電子出版にもこの仕組みを積極的に取り入れていきたいと考えています。コンテンツの校正が完了する前から「β版」として販売を行い、著者がコンテンツを更新すると、PDFの再生成からサイトの更新までを自動的に行います。

また、読者から著者に情報をフィードバックする仕組みを用意し、それに応じて著者がコンテンツを更新できるようにします。これにより、情報の品質を高め、陳腐化を防げるようにします。

利益の50%を著者に提供

電子出版は物質的なコストと流通のコストを減らすことができます。そのコストは著者にも還元されるべきものです。

達人出版会は、売上から販売手数料（決済手数料等）を除いた金額を、著者と当会で折半する予定です。また、編集にかかるコストについては、上記の読者からのフィードバックを利用して、低コストかつ高品質なコンテンツを提供を目指します。

Creative Commonsライセンスの文書の販売

ネットワークやソフトウェア開発においては、フリーソフトウェア・オープンソースソフトウェアと並び、RFCを始めとする自由に複製・配布可能な文書が、その普及と発展を支えてきました。

達人出版会は、自由な文書を広く流通させることも、読者から著者に金銭的なメリットを還元することと並んで重要視しています。そのため、Creative Commonsでライセンスされた、すなわち利用者が複製可能な文書を販売します。購入した文書は、もちろん読者自身がCCライセンスによる複製・配布を行えます。

利用者による宣伝効果等により、自由でありながら金銭的利益も得られるコンテンツ流通の仕組みを構築を目指します。